平成 31 年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	２年間の目標 （平成 30 年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校内評価		学校関係者評価 （３月 19 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図る。 ②実習・体験を重視し、学科併置の特色をいかした幅広い教育活動を展開する。	①「見通しを立て、振り返りをする学習活動の工夫」を共通目標とした授業改善を進める。 ②新学習指導要領に基づく教育課程の編成を進める。 ②学校の特色に基づく教育活動を行う。	①組織的な授業改善の取り組みを通し、学校共通の学びのスタイルを確立する。 ②教育課程上の課題を整理し、基礎学力の充実を目的として教育課程の編成を進める。 ②食や地域に着目した教育活動を行う。	①共通の学びのスタイルを確立することができたか。 ②教育課程上の課題を整理し、基礎学力の充実を目的として具体的な取り組みができたか。 ②食や地域に着目した教育活動を行えたか。	①公開授業を実施し、各教科・全体で協議を行うことができた。 ②都市農業科の１・２年次の教育課程を一部改訂した。 ②和田ｷｬﾝﾊﾟｽの施設を活用して食育を進めた	①引き続き学校全体の取組を継続し、授業研究の内容を充実させる。 ②基礎学力充実に向けた取組を、学校全体の取組として進める。 ②引き続き学校全体の取組として進める。	・ＩＣＴ活用により基礎学力の定着と評価を、今後も推進していただきたい。 ・入学希望者が少ない点が心配である。魅力ある学校とすることが課題である。	①職員による主体的な研究授業が実現でき、ICT 活用方法についても提案があった。今後、評価の在り方を検討することが課題。また、新ｶﾘｷｭﾗﾑ編成を加速させることが急務である。 ②次年度より食育委員会設立を決定した。	①よりよい授業づくり、適切な評価の在り方等について研究を一層充実させていく。学科併置の特色を反映した新ｶﾘｷｭﾗﾑを完成させる。 ②食育推進プロジェクトが中核となり、入江圃場活用等を具体的に推進する。
2	生徒指導 ・支援	①基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図り、支援的視点による生活指導に取り組む。 ②様々な教育活動の機会を活用し、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力及び自己有用感の育成を図る。	①指導と支援の一体化を進め、問題行動の未然防止に努める。 ②両キャンパスの交流や学校行事、部活動等を通じて、生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高めるとともに、自己有用感を高める。	①教育相談との連携により、生徒の実態を把握し、問題行動未然防止に向けた指導を進めていく。 ②生徒が充実感を持ち、学科相互の理解を深められるよう行事を工夫するとともに、振り返りを行う。	①支援的視点による生活指導・生徒支援の体制づくりが、学校全体でできたか。 ②振り返りやアンケートから、生徒の充実感や自己有用感の向上がうかがえるか。	①教育相談ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが中心となり、SC、SSW と連携した状況共有や生徒支援ができた。 ②普通科・都市農業科が一体となった文化祭を実施することができた。	①引き続き、このしくみが組織として定着するよう推進していく。 ②両学科が一体となった行事を充実させていくとともに、個々の生徒の充実感や自己有用感の向上をはかっていく。	・教育相談Co.が学校全体を俯瞰して教職員の支援・指導力を向上させることで、現在の取組みが定着するものと思われる。 ・生徒の実態を把握した上で、適切な指導を期待する。	①各ｷｬﾝﾊﾟｽで教育相談ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが中心となり、状況に応じた生徒支援を実現した。更に両ｷｬﾝﾊﾟｽ間で支援の在り方等について共有の手立てが必要。 ②生徒専門委員会活動が両ｷｬﾝﾊﾟｽで一体的に取り組めることが課題。	①両ｷｬﾝﾊﾟｽの教育相談に関わるスタッフを構成メンバーとする定期的な打合せの開催や職員研修を充実させる。 ②生徒専門委員会の具体的活動計画を立案し、その実践に教員の指導力を発揮する。
3	進路指導 ・支援	・地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成に向けて、生徒が自ら目標を設定し主体的に取り組むことのできる進路指導の充実を図る。	・生徒一人ひとりの進路希望を実現するため、生徒が自ら取り組めるように３年間を見通したキャリア教育の体系化を図る。	①　ｷｬﾘｱ教育の観点から、３年間を見通したｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの充実を図る。 ②また、生徒一人ひとりに対して、丁寧な進路指導を行う。	①個に応じたｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの充実が図れたか。 ②生徒一人ひとりに丁寧な進路指導ができたか。	①ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ参加者を前年より増やすことができた。 ②ｺﾝｿｰｼｱﾑｻﾎﾟｰﾀｰを活用した進路行事も実施できた。	①ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟなどを活用し、個に応じたｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを充実させる。 ②プログラムに乗り切れない生徒にどのように対応するかが課題である。	・校内外の資源を今後も活用し、自己有用感を育むプログラムの充実を期待している。 ・ＳＣＣの配置は有効であり、その実現を望む。	①約８割の卒業生が進路希望を実現した。 ②ｺﾝｿｰｼｱﾑｻﾎﾟｰﾀｰが中核となり、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟやﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等、地域とつながる機会を活用する生徒が増加した。	・地域の行政、企業、農家等との繋がりを一層拡大・充実させて、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟやﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等のみならず、地域への積極的な就職や就農を実現させる。
4	地域等との協働	・地域の特性を理解し、地域と積極的にかかわりを持ち貢献することで、自己有用感・自己肯定感や社会性を育む。	①地域行事やボランティア、学習活動を通じて、生徒の自己有用感、自己肯定感を育む。 ②農業の６次産業化に向けて、地域と継続的に連携する。	①地域行事やボランティア活動を、継続的に生徒に紹介し、生徒の活動を活性化させる。 ②農業の６次産業化に係る人材育成の推進に向け、関係機関との連携を密にする。	①地域行事やボランティア活動を、継続的に紹介し、参加生徒数を増やすことができたか。 ②連携の成果が、生徒の校内発表及び校内研究授業の形で実施できたか。	①農業科が、農協の行事、全国朝市ｻﾐｯﾄといった地域行事に参加した。 ②成果を校内だけでなく、外部に発信することができた。	①普通科に関しては総合的な探究の時間における地域理解を充実させる。 ②食品製造室の活用や地域との連携による農業の６次産業化に係る人材育成を推進する。	・近隣校（小～特）との交流や地域の教育力を生かせるプログラムの充実を期待している。 ・地域産業等に関して教員が学習することが必要であろう。	①地域との関わりを、産業、防災、文化、スポーツ等へと一層広げることが課題。 ②食品製造室に係る販売許可の承認を受け、具体的な製造・販売の準備が整った。	・職員が地域理解を深められる機会を計画、設定すると共に、入江圃場の有効な活用を立案する。
5	学校管理 学校運営	①２つのｷｬﾝﾊﾟｽの教育環境及び連絡・防災体制の整備により、安心安全で信頼される学校づくりをする。 ②学校運営協議会の導入により学校の強みを伸長し、在校生にも中学生にも魅力的な学校づくりに取り組む。	①避難訓練等、生徒向けの防災関連プログラムを充実させるとともに、職員の防災体制づくりを進める。 ②学校運営協議会を通し、学校の中期的な方向性を定める。	①避難訓練の実施や防災マニュアルから、両ｷｬﾝﾊﾟｽの連絡体制を整備する。 ②学校運営協議会の各部会の課題を明確にし、部会ごとの協議を充実させる。	①　避難訓練の実施状況や防災マニュアルを含む両ｷｬﾝﾊﾟｽの災害時の体制を整えることができたか。 ②課題解決の方向性、方策を具体的に見いだせたか。	①地震（津波）避難訓練、火災避難訓練を実施し、災害時の対応を整えた。 ②部会ごとの協議を実施し、課題をある程度明らかにすることができた。	①引き続き、実践的な訓練を実施し、職員や生徒の緊急時の対応力の向上をはかる。 ②部会を活性化し、具体的な意見をいただくとともに、PDCA サイクルの流れで評価をいただく形にする。	・毎年の避難訓練の励行。継続が重要である。 ・近年では、地震、津波のみならず、豪雨、台風災害の他ウィルス対策など危機管理への幅広い対応が望まれる。	①定期的な避難訓練が定着している一方で、受け身の訓練になる傾向が見られる。主体的で能動的な取組みになるような工夫が必要。 ②本校が抱える課題を４点に絞って協議をすることができた。尚一層、具体的な意見聴取に向けた工夫が必要。	①避難訓練の手法を研究し、入江ｷｬﾝﾊﾟｽで両学科合同の訓練を立案、実践する。 ②本年度の４つの課題について、継続協議・新たな課題設定等、丁寧な検討が望まれる。